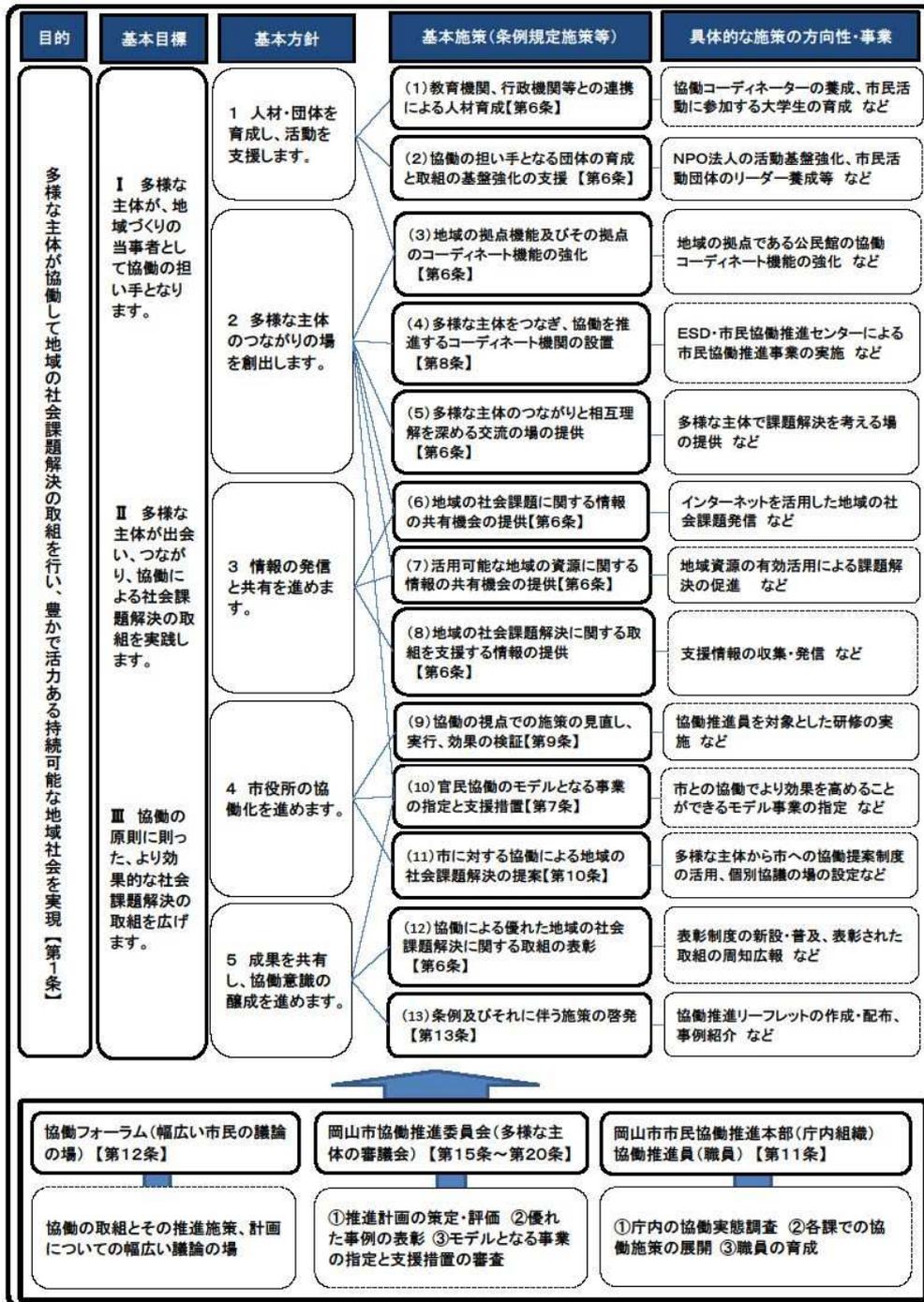


第3章 前計画の主な取組内容及び評価

前計画では「多様な主体が協働して地域の社会課題解決の取組を行い、豊かで活力ある持続可能な地域社会を実現すること」という目的のもと、その実現に向けて様々な具体的な取組を行ってまいりました。

前計画の体系図



1. 成果指標の達成度

前計画では、5つの基本方針に対して成果指標を設定し、目的の到達度を図ることとしていました。成果指標は、全9指標あり、そのうち4指標が目標を達成、3指標が当初値から上昇、1指標が当初値から減少という結果となり、全体として前計画による取組は順調であったと言えます。その内容の詳細は次のとおりです。

(1) 人材・団体を育成し、活動を支援します。

【5年後の姿】より多くの市民が自主的な地域活動に参加している状況

【成果指標】

指標	当初値 (H27)	現状値 (R1)	目標値 (R2)	状況
地域活動への市民の参加割合	39.9%	45.3%	55%	上昇
「ボランティア・NPO・市民活動の支援」の満足度	13.7%	24.3%	20%	達成

指標の数値は隔年で実施される市民意識調査を用いており、令和2年度は調査を実施しないことから、「地域活動への市民の参加割合」については目標が未達成となりましたが、指標の数値は年々上昇しており、一定程度の成果はあったものと言えます。また、「ボランティア・NPO・市民活動の支援」の満足度については目標値を達成することができました。

(2) 多様な主体のつながりの場を創出します。

【5年後の姿】より多くの主体が協働し社会課題解決に取り組んでいる状況

【成果指標】

指標	当初値 (H27)	現状値 (R1)		目標値 (R2)	状況
協働による取組に向けたマッチングの結果、実際の取組につながった件数	9件	単年度 9件	累計 26件	20件	達成
企業、NPO法人等が参加した安全・安心ネットワーク数	23件	40件		50件	上昇

2つの指標とも数値が上昇しており、「企業、NPO法人等が参加した安全・安心ネットワーク数」については、目標を達成することはできませんでしたが、指標の数値は年々上昇しており、一定程度の成果はあったものと言えます。

(3) 情報の発信と共有を進めます。

【5年後の姿】より多くの市民が協働に関する情報を得て、活用している状況

【成果指標】

指標	当初値 (H27)	現状値 (R1)		目標値 (R2)	状況
		単年度	累計		
協働による取組に向けたマッチング件数	26件	単年度 19件	累計 92件	40件	達成
市民協働推進ポータルサイト「つながる協働ひろば」への岡山市の課題に関連する情報の掲載件数	0件	単年度 6件	累計 19件	20件	上昇

協働による取組に向けたマッチング件数は、NPO法人、企業、学校等の様々な主体から相談があり、目標達成することができました。

(4) 市役所の協働化を進めます。

【5年度の姿】官民協働による社会課題の解決に、より効果的に取り組んでいる状況

【成果指標】

指標	当初値 (H27)	現状値 (R1)	目標値 (R2)	状況
市民協働推進モデル事業の評価 (100点満点中80点以上の割合)	42%	16%	100%	下降
各課の協働事業の自己評価 (100点満点中80点以上の割合)	—	88.9%	100%	—

「市民協働推進モデル事業の評価」については、当初値より数値が下がる結果となっています。これは、毎年、取組内容や協働担当課、市民活動団体等が異なり評価にばらつきが生じるためと考えられますが、平成28年度～令和元年度の平均点は、75.4点であり、また多くの事業は岡山市の一般施策化に繋がりました。

(5) 成果を共有し、協働意識の醸成を進めます。

【5年後の姿】より多くの市民が協働による取組の必要性和重要性を認識している状況

【成果指標】

指標	当初値 (H27)	現状値 (R1)		目標値 (R2)	状況
		単年度	累計		
優れた取組の表彰の場(市民協働フォーラム)の参加者数	—	288件	980件	150件	達成

市民協働フォーラムをSDGsフォーラムと兼ねることで、参加者数を増やすことができ、目標値を大きく上回ることができました。

2. これまでの主な取組

(1) ESD・市民協働推進センター

「岡山市協働のまちづくり条例」第8条に規定する「多様な主体をつなぎ、協働を推進する」ためのコーディネート機関としてESD・市民協働推進センターを設置しており、新たな協働の担い手の発掘や伴走支援等の実施、市民の自由な発想を実現するために多様な主体による課題解決や事業構築を行っています。また、岡山ESD・SDGs普及啓発事業を支援し、市民活動へのESD・SDGsの浸透を図っています。

【事業の特徴】

- ・市民から寄せられる地域での社会課題や協働事業の提案に関する相談窓口
- ・協働に関する講座やワークショップの開催
- ・市民協働推進モデル事業や区づくり推進事業等の支援 など

【相談件数・人数の推移】

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019
相談件数（件）	107	243	298	242	208	302
相談人数（人）	243	446	566	586	526	778

(2) 市民協働推進モデル事業（令和3年度から市民協働推進事業へと改称）

岡山市の地域での社会課題の解決を岡山市と市民活動団体等との協働によって進める制度であり、より効果的に課題解決が進む事業を公募し、実施するものです。事業終了後、岡山市の一般施策または市民活動団体等の自主事業として継続することを目指しています。

【事業の特徴】

- ・年間上限200万円、最長2年間（最大400万円）で事業を計画
- ・ESD・市民協働推進センターが事業計画から実行まで支援

【事業数の推移】

年度	2016	2017	2018	2019	2020
実施事業	7	8	6	6	5
新規事業	6	5	4	4	2
一般施策化	5	3	3	—	—
自主事業	1	0	1	1	—
その他	0	2	0	0	—

(3) おかやま協働のまちづくり賞

多様な主体の協働による地域の社会課題解決に向けた取組のうち、優れた取組を表彰・支援する制度であり、こうした表彰を通じて市民活動団体等の意欲の向上を図り、活動のさらなる拡がりへとつなげることを目指しています。

【事業の特徴】

- ・ 毎年募集テーマを変えており、第3回からSDGsの視点を導入
- ・ 市民協働フォーラムで表彰し、取組事例を団体から発表
- ・ 市役所や岡山駅南地下広場で取組を紹介するパネルを展示

【募集テーマと応募件数の推移】

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
開催年度	2016	2017	2018	2019	2020
募集テーマ	笑顔と場づくり	楽しんで年を重ねられる社会のために	やりがいと豊かな暮らし	すべての人に健康と優しさを	地域と食と未来
応募取組	20取組	13取組	9取組	9取組	14取組
インターネット投票	688人投票 (1376票)	375人投票 (750票)	254人投票 (508票)	210人投票 (420票)	238人投票 (476票)
審査結果	大賞1 入賞4	大賞1 入賞4 奨励賞8	大賞1 入賞4 奨励賞4	大賞1 入賞4 奨励賞5	大賞1 入賞4 奨励賞9

(4) 区づくり推進事業

地域でのまちづくりを進めていくため、地域の特色をいかし、区民が主体となって企画・運営する事業を支援する制度です。地域交流を促進する交流イベント等を対象とする「身近な交流部門」「広域交流部門」と、課題解決を行うための地域活動や組織づくり等を対象とする「地域活動部門」があります。

【事業の特徴】

- ・ 身近な交流部門（小学校区内）は最大40万円（補助率1/2）
広域交流部門（2以上の小学校区）は最大200万円（補助率1/2）
地域活動部門（概ね小・中学校区の単位）は最大200万円（補助率1/2※）
※新規事業立ち上げ年度に限り補助率4/5
- ・ ESD・市民協働推進センターが地域活動部門の事業化に向けて相談・事業実施支援

【実施件数の推移】（上段：件数、下段：件数のうち新規の件数）

年度	2016	2017	2018	2019	2020
身近な交流部門	44 (1)	45 (3)	50 (4)	51 (1)	50 (1)
広域交流部門	18 (0)	19 (1)	20 (0)	20 (0)	19 (0)
地域活動部門	21 (13)	23 (6)	21 (3)	17 (2)	12 (0)
合計事業数	83 (14)	87 (10)	91 (7)	88 (3)	81 (1)

3. 岡山市協働推進委員会の中間評価

岡山市では、「岡山市協働のまちづくり条例」第15条に基づき、協働による地域の社会課題解決に関する取組の推進を調査・審議する「岡山市協働推進委員会」を設置しています。その委員会が、前計画の中間年にあたる令和元年10月1日に中間評価を取りまとめました。その内容は、「社会課題解決を目指す岡山市の取組は着実に広がってきました。今後は、取り組むべき重点項目を定め、より効率的な協働を推進していくことが必要」とし、以下4点の推進について、岡山市へ意見提出されました。

- ① 柔軟なプランの構築
 - ・社会情勢や市の施策の方向性の変化に対応できるよう、計画に柔軟性を持たせる
- ② 新しい担い手の発掘・育成
 - ・岡山市の協働はNPO法人をはじめとする市民団体が中心であり、新たな担い手や担い手同士の協働が必要
 - ・持続可能な岡山のまちづくりを目指すには、若者が地域づくりの当事者として活動することの意義を実感できる取組が求められる
 - ・担い手同士の協働を促すためには、地域組織の担い手に働きかけなければならない
- ③ コーディネート能力の向上
 - ・課題解決能力を高めるために、異なる分野で活動する主体を繋げるコーディネート力の向上が必要
- ④ 協働の基本原則に基づいた責任ある協働
 - ・岡山市協働のまちづくり条例第4条に基づく持続可能なまちづくりに向けた取組

4. 市民協働フォーラムでの意見

令和2年8月31日に市民協働フォーラムを開催し、市民活動団体や町内会、企業等様々な立場の市民と、前計画の総括と新たな協働推進計画の策定に向けた意見交換を行いました。

ワークショップでは、参加者を5グループに分け、前計画の5つの基本方針ごとに評価（生活の変化やエピソードなど定性的な評価）を行い、基本方針（1）～（4）については「5年間でよくなった」という評価が一番多く、（5）については「5年間でかわらない」が一番多いという結果となりました。

基本方針		5年間でよくなった	5年間でかわらない	5年間でわるくなった
(1)	人材、団体を育成し、活動を支援します。	15	11	8
(2)	多様な主体のつながりの場を創出します。	13	2	4
(3)	情報の発信と共有を進めます。	6	5	2
(4)	市役所の協働化を進めます。	10	8	6
(5)	成果を共有し、協働意識の醸成を進めます。	4	5	3
その他		0	1	5
合計		48	32	28
割合		44%	30%	26%

次に、基本方針の重要度、満足度に関する順位付けをグループごとに行ってもらい、優先順位（重要度が高く、満足度が低い）を確認し、基本方針（1）が最も優先順位が高く、基本方針（5）が最も優先順位が低いという結果となりました。

基本方針		重要度		満足度	
		高い	低い	高い	低い
(1)	人材、団体を育成し、活動を支援します。	5	0	1	4
(2)	多様な主体のつながりの場を創出します。	4	1	1	4
(3)	情報の発信と共有を進めます。	3	2	1	4
(4)	市役所の協働化を進めます。	3	2	0	5
(5)	成果を共有し、協働意識の醸成を進めます。	2	3	1	4

また、参加者から、5つの基本方針ごとに施策案・改善案について意見をいただきました。その主な内容は以下のとおりでした。

基本方針		施策案または改善案
(1)	人材、団体を育成し、活動を支援します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民が協働に参加する上でインセンティブ（動機付け）が必要 ・ 親子で参加できる研修（多世代を対象とした研修）を増やす ・ 同じような研修を企画・実施している主体との協働を進める ・ 出前式講座の実施 ・ 若い人向けかつ短時間の研修 ・ 小さいころから地域と関わるきっかけをつくる
(2)	多様な主体のつながりの場を創出します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民協働推進ニーズ調査の結果をより多くの主体と共有する
(3)	情報の発信と共有を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協働に有益な情報が得られるだけでなく、協働の実践者が知見をフィードバックできるシステムをつくる
(4)	市役所の協働化を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各部署からの提案または協働の取組を促すため、数値目標をつくる ・ 地域活動を伴走支援する
(5)	成果を共有し、協働意識の醸成を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民協働に関する行事の参加者が口コミを投稿できる（情報が蓄積され、誰でも閲覧できる）媒体をつくる

今回のフォーラムでの意見をとりまとめると、5つの基本方針のうち、(1)～(4)について「5年間でよくなった」との意見が多く、(5)について「5年間でかわらない」との意見となりました。こうした多くの「よくなった」という意見は、前計画の成果指標の数値の傾向とも一致しており、実生活上も地域での社会課題に向けた取組が実感されているものと考えられます。

また、取り組む優先事項として、基本方針(1)「人材、団体を育成し、活動を支援します」と、基本方針(2)「多様な主体のつながりの場を創出します」は優先順位が高く、基本方針(5)「成果を共有し、協働意識を醸成します」は優先順位が低いという結論となりました。全体として満足度は低いものの、その理由を伺うと、施策への不満というよりは改善すべき点があるとの意見であり、取組内容の改善、見直しを図り、さらなる協働の推進に取り組んでいく必要があります。